

## 46 ズーフィコス化石群



指 定 平成 19 年 3 月 23 日 屋久島町指定天然記念物  
所在地 屋久島町宮之浦

ズーフィコス化石群は、スプライトと呼ばれる「コウモリ傘」状の構造物が傘の「柄」にあたる中心軸に串刺しされたように何段にも重なるという、極めて特異な三次元構造を持つことで知られている生痕化石です。生痕化石とは生物そのものではなく、生物の巣穴の跡や足跡などを指します。ズーフィコス化石群は、深海底に棲んでいた動物（深海性ユムシ類など）排泄行動で形成されたと考えられています。世界では、アメリカ、ニュージーランド、フランスなどで報告されていて、6億年前の地層からも見つかったことから広範囲かつ古い時代から生きていた動物であることが分かります。

ここ、屋久島宮之浦のズーフィコス化石群は2003年に発見され、その報告を受けた鹿児島県立博物館によって確認されたものです。発見された化石は、保存が良く、細粒砂岩の層理面上に最大直径105cmに及ぶものもあり、この化石の最大の特徴である螺旋状の構造を見事に残しています。化石を産出した地層は、四万十層群の砂岩や泥岩などの互層からなる地層で、古第三紀（約6000万年前）にできたものと考えられます。

大きさ、密集状況、保存状態の良さなど、国内屈指であり、貴重な文化財といえます。